

愛媛県立松山盲学校オープンスクールに参加して

愛媛県立松山盲学校について

愛媛県立松山盲学校(以下 松山盲学校)は、愛媛県下でただ一つの視覚に障害がある幼児・児童生徒のための学校です。幼稚部・小学部・中学部・高等部があり、高等部には本科普通科、本科保健療科、専攻科療科があります。

松山盲学校の歴史は古く、明治40年、自らも全盲であった森恒太郎(盲天外)らによって「私立愛媛盲啞学校」として創設されました。昭和4年には県に移管され、昭和27年に「愛媛県立松山盲学校」と校名が変更されました。昭和41年に現在地(松山市久万の台)に移転し、今年で106年目になります。



オープンスクールに参加して

毎年、松山盲学校では県内の小・中・高校生らを対象に視覚障がいや視覚障がい教育、盲学校に対する理解を深めるために”オープンスクール”を開催しています。今年は、7月30日に行われ、本校より9名の生徒が参加しました。そのうち4名は、私たち人権委員が参加しました。以下、当日の様子を紹介したいと思います。

受付したあと、開会行事がありました。白石隆保校長先生のあいさつの後、盲学校の授業内容や学校生活、視覚障がいについての説明などを受けました。その中で高等部普通科の授業カリキュラムは、私たちの高校とほとんど同じ内容を学習していることを知りました。ちょっと違うのは、自立活動とあって、障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するために必要な知識や技能を習得する時間があることです。保健療科・専攻科は、あん摩・マッサージ・指圧などの資格を取るための学科で、年配の生徒が学んでいることも驚きでした。開会行事のあと、4つの体験グループ(点字・ガイドヘルプ・スポーツ・パソコン)に分かれて体験しました。



午前中私たちは、ガイドヘルプの体験をしました。ガイドヘルプでは、最初に白杖の使い方を学びました。白杖とは視覚障がい者が自分の体を守り、目的物を探すために使うものです。また、視覚障がい者であるというシンボルにもなるそうです。この説明を聞いた後で、実際にアイマスクをつけ白杖を持って校内を歩きました。左の写真がそのときの様子です。白杖を壁に当てながら障害物を確認しながら進むのですが、初めて白杖を持ったので最初はコツが分からず難しかったし、目が見えない状態で歩くことはとても不安でした。と同時に、「視覚に障がいのある人はすごいなあ」と思いました。また、白杖にもたくさんの種類があり、一本の棒のような直杖や折りたたんでカバンなどに収納できる折りたたみ式の白杖などがあるそうです。最近では、蛍光シールを貼って、夜間など暗いところでも発見されやすくしたものや、音声信号機に反応して音声案内を聞くことができるものもあり、視覚障がい者にとって歩きやすい環境が整ってきていることなどを教えてもらいました。

次に、ガイドヘルプの体験をしました。アイマスクをつけて、視覚障がい者役と視覚障



がい者をガイドする役のペアになって、視覚障がい者をガイドする方法を学びました。最初に、ガイドする側の立ち位置を教えてくださいました。基本的には、視覚障がい者のきき手が自由になるように立つのが望ましいそうです。しかし、視覚障がい者の安全確保の面からガイドが車道側や溝のある側を歩くこともあります。ガイドする際には、視覚障がい者にガイド者の肘を持ってもらうか、肩に手を置いてもらいガイドするようにします。ガイド者は視覚障がい者から半歩斜め前に立ち、二人分の通路幅を確保することが必要だそうです。また、ガイド者が周りの景色や状況を説明することで、視覚障がい者は周りの状況を把握でき、安心してそして楽しく歩けるのだそうです。私が体験した時は、立ち位置ばかりに気をとられ、通路幅を確保するところまで意識できませんでした。それから、白杖を使って歩くより、ガイドの人に手引きしてもらいながら歩く方が、歩きやすいと感じました。今後、実際にガイドするような機会があれば、今日学んだことを生かしたいと思いました。



午前中の体験の最後は、テーブルオリエンテーションをしました。これは、食事などをする際にテーブル上のどこに料理や飲み物があるとか、種類などを視覚障がい者に知らせる方法のことです。知らせる方法には、二つあるそうです。その一つ目は、テーブル上の配膳を時計の文字盤に見立てて説明する方法で、クロックポジションといいます。時計は普段から使っているものなので、文字盤の位置にたとえて説明されるのはとても分かりやすかったです。二つ目は、視覚障がい者の手を導いて説明するものです。料理などのお皿のふちに手を導いて、その名前と位置を説明します。この方法は、料理などよりも、コップや水筒など飲み物の位置を知らせるのに適しているとのことでした。



午後の体験プログラムは、フロアバレーボールというスポーツをしました。この競技は、バレーボールのネットが床から30cmくらい上に張ってあり、そのすき間にボールを転がし合うものです。バレーボールと同じところは、3回で相手に返さなければならないところです。大きな特徴は、前衛プレイヤーはアイマスクをしてプレイします。見えないので、相手側にボールを打ちたくても前後左右の位置が分からず苦労しました。前衛同士のボールの打ち合いは、結構激しいもので、とても怖かったです。後衛プレイヤーは、前衛者に声を出して指示しますが、なかなかうまく声をかけることができませんでした。



私は「視覚障がいのある人たちは毎日大変な思いをしているのだろうな、きっと不便なことがたくさんあるのだろうな」と思っていました。けれど、視覚障がいのある人たちは、白杖や点字を使って私たちのように毎日を過ごしているんだなと感じました。そして、もしも街で困っている人を見かけたら、自分から手助けをしたいと思いました。



次回の放送は、10月16日(水)の予定です。お楽しみに…

お願い

今日の放送を聞いて生徒の皆さんの感想や、この資料をご家庭に持ち帰ってご家族の方と話し合ったこと、ご感想などをお寄せください。提出は、ホームルーム担任まで

切り取り線

第4回ハートフルデー

()年次 生徒 or 保護者
